

第 2 回播磨臨海地域カーボンニュートラルポート推進協議会 議事概要

日時:令和 4 年 10 月 24 日(月)10:00~11:40

場所:アクリエひめじ 408・409(WEB 併用)

●意見交換内容

- ・水素発電による電気代は、現状ではかなり高価であり、スケールメリットを出す事で、コストダウンを図ることが今後の課題。そのためにも補助金の充実、市場の開拓が大事である。
- ・先駆的な次世代エネルギーの受入拠点は、空いた土地があるから作るのではなく、消費地に近いところに作る事が重要。
- ・今後検討する CO₂ 排出削減計画やロードマップには、姫路に導入する水素量とアンモニア量とそのスケジュール、および各企業のその使用予定量のスケジュールのマッチングが合うように、各企業の水素・アンモニアの輸入量と使用量の情報を入れていただきたい。
- ・2030 年に向けて、この地域で排出される CO₂ をうまく減らすことができれば成功事例となる。
- ・グリーン水素と CO₂ からメタンを作るメタネーションの検討を進めている。水素の利活用の1つであり、既存のインフラを活用できることがメリットである。アンケートでもメタンに興味を持っている企業があることから、CNP 形成計画にメタンも織り込んでいただきたい。
- ・次世代エネルギーの展開に向けて、グリーン水素・アンモニア・MCH 等の様々なエネルギーの検討を進めている。FS・実証により技術を確立するまでに時間がかかるものもあるため、時間軸も重要となってくる。今後、ロードマップを検討していく中で議論させていただきたい。
- ・播磨臨海地域は、産業が集積しており、カーボンニュートラルの取組みは先進的であると認識している。
- ・立地企業内の専用埠頭の切り分けは難しいようだが、専用埠頭の整備工事過程における CO₂ の排出削減を CNP 計画に盛り込むことはできないか。
⇒(事務局)CNP マニュアルでは、港湾工事による CO₂ 排出削減も、盛り込むことができることとなっている。
- ・近畿経済産業局が実施している水素産業ニーズ・ウォンツ発表会は良い取組みなので、こういう会を増やしていった方が良い。
- ・液化水素サプライチェーン構築に向け、姫路を拠点として海外からのグリーン液化水素を輸送し、国内に供給することを考えている。そのためには、支援による後押しが必要となる。

・拠点整備のイメージとしては、現在の発電所に近いエリアで自社発電に見合う形で国内受入基地を作り、パイプラインで発電所への供給体制を整える。また、周辺事業者の需要に応じてパイプラインやローリー等を用いた供給方法も検討していく。

・公共埠頭の荷役機械のFC化がなされるとすると、公共設備で水素を取り扱う可能性はあるのか。
⇒(事務局)荷役機械のFC化のためにはエネルギー供給が課題となる。どのように供給するのかや、EV化等も含めて検討する必要がある。

・事業者が新しく設備を導入するには、FS調査が必要となる。地域の課題にあった調査であれば自治体の助成対象とするなど、財政的な支援があれば、検討が促進すると思う。

以上